

2024年7月24日 Vol.226

IPO銘柄でポートフォリオ構築

円安傾向が続く中で日経平均は7月11日に高値4万2426円まで、まるで跳ね上がるように簡単に上昇しました。そうした動きから一転して米国の金利引き下げの観測と日銀による為替介入、金利上げ観測から円高への動きが見られ、日経平均は22日に3万9519円まで調整。久々に波乱の様相ですが、その背景になっている半導体関連銘柄をはじめとした主力銘柄が調整の動きとなれば関心が高まるのがIPO銘柄。

残念ながら大半の直近IPO銘柄が調整局面にありますが、中には6月28日にグロース市場に上場したロゴスHD(205A)のような今期好業績見通しを背景に連日の高値更新を続けている銘柄や4月25日に上場した細胞培養用培地メーカーのコージンバイオ(177A)、創薬ベンチャーのChordia(190A・本年6月IPOで安値から直近高値まで4倍化)、クオリプス(4894・昨年6月IPOで安値から高値まで7倍化)のような人気銘柄もあり、投資家の関心を集めています。コージンバイオの場合はコロナ感染再拡大や世界的なデング熱の流行などということもありましたが、投資家のリスクマネーは低PERの比較的割安感のある銘柄にも向かっているという印象があります。現在のグロース市場の平均PERは50倍を超えていますが、中にはSTG(5858・PER9.2倍)のようにPERが10倍を下回りかつ利益成長の可能性が感じられる銘柄もありますが、残念ながら流動性の視点で見劣りする点が問題です。また、アズパートナーズ(160A・PER9.9倍)のようなスタンダード銘柄にも比較的low PERに甘んじている銘柄が見出されます。そうした銘柄をピックアップしてポートフォリオを構築すれば中長期的な運用成果を上げられると期待されます。但し、low PERだから絶対に良いという訳ではありません。low PERでなおかつ利益成長が期待される銘柄も見出すことで将来のリターンを上げやすいと考える次第です。

ただ、IPO銘柄投資の問題はまだIPO後のIRが不足していて投資家心理が不安定なことや短期的な視点での投資が主体となり、株価への信頼性に欠けている点です。この点ではまだリスク要因が内包されていますが、IPO銘柄で構築したポートフォリオ運用を楽しむ皆さんが増加することを筆者は大いに期待しています。特にIRでの社長からの成長に向けたメッセージが発信されていて長期視点での信頼性を得ている銘柄については有効だろうと思われます。IPO時から低PBRにある銘柄は少ないのですが、このところは比較的low PERに甘んじている銘柄やIPO直後から有配で比較的配当利回りが高い銘柄も存在しており、そうした銘柄で構築したポートフォリオでは中長期的なスタンスで比較的高い成果が得られる可能性も秘めています。ぜひ皆さんも東京IPOサイトを活用して頂き、積極的に直近のIPO銘柄を吟味しながらポートフォリオを構築して頂きましたら幸いです。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)